

なにわ八百八橋

52期生

I テーマ設定の理由

大阪は昔から「八百八橋」と呼ばれ、橋の多さが際立っています。橋は人の生活にとって切っても切れないものです。ふだん何気なく目にしたり、渡ったりしている橋にどのような歴史があるのか、どのような過程をへて今の姿になっているのかに興味を持ち、調べることにしました。

II 研究方法

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| (1) フィールドワーク | 大阪市内の橋をできるだけ多くまわる（交通機関は地下鉄を利用） |
| (2) 文献調査 | 橋に関する本をなるべく多く調べる |
| (3) 聞き取り調査 | 大阪市役所の橋梁課の方からお会いして、参考になるお話を聞く。 |

III 研究内容

私たちは日常の生活の中で「橋」のつく地名やそれに関する地名を目にしたり、そこを通ったりしています。

もっとも原始的な橋といえば丸太の橋をイメージしますが、その1本の橋だけでも生活範囲は広がり、生活にも変化が生まれただろうと思います。

最近、明石海峡やしまなみ街道など大がかりな橋がつぎづきにかけられ、島と島とがむすばれ、昔は思いもおよばなかった人や物の行き来がかんたんにできるようになりました。

大阪は昔から八百八橋と呼ばれ、たくさんの橋がかけられていました。おそらくそれは商業の発展にとっても役立っただろうと想像できます。私財をなげうって造った橋もあればとても由緒ある名前の橋もあります。

ただ、大きな橋は道と一体化していて、どこから橋なのか車でわたっているとよくわかりませんが、横から見た橋の美しさ、精密さを感じることもあるでしょう。

では、これからそんな橋たちの今、昔の歴史を紹介していきましょう。

まず、「なにわ三大橋」とよばれる橋から紹介していきましょう。

～天満橋～



図1

この(図1)天満橋は、明治18年の淀川大洪水以前にかけられていて、木でできていました。

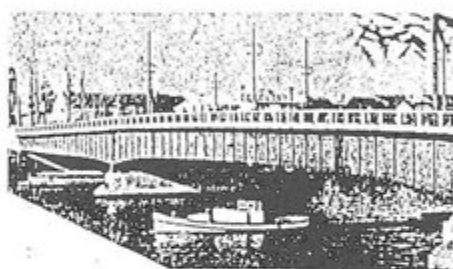
また、江戸時代には橋の北詰では青物市場が賑いを見せました(図2)。

南詰には東西の奉行所が(西町奉行所はのちに本町に移



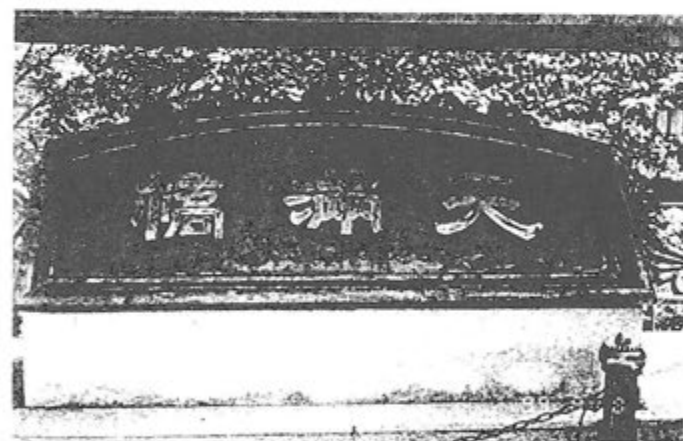
「摂津名所図会」より天満賣物市場の賑い

▲図2



昭和初めの天満橋

▲図4



▲図5

転) あったり、その他たくさんならんでおり、政治の上でも重要な橋でした。

図3は、淀川大洪水(明治18年)の後にかけられた鉄橋です。この橋の主要部分はドイツ製ですが、欄干、照明柱、橋名額は日本製で、国内工業の発達を表しています。(橋名額は今でも中ノ島公演に残っています(図5))

図4は、上記のかけかえ後の天満橋(今の天満橋と同じ姿になりました)です。

設計者の言葉を借りれば、「のびのびとした、鳥が翼をひろげたような形」だそうです。また、このころには橋の上を市電が通っていました。

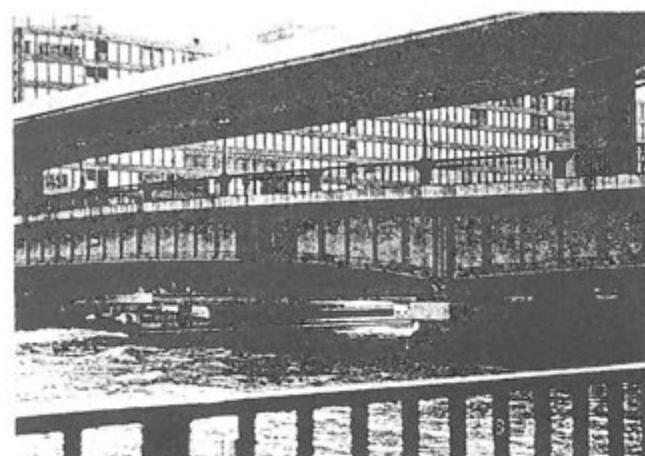


▲図3

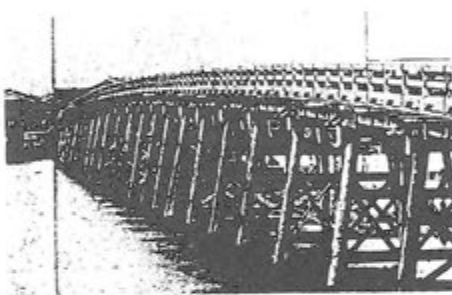
さて、図6は、(スペースの都合上写真は次ページ)現在の天満橋です。天満橋の上にかかっている「新天満橋」は、昭和39年の市電廃止にともなってきた空きスペースをどうにか活用できないかということで、天満橋周辺の交通混雑解消のためにかけられました。

もともと天満橋は市電の重みに耐えるようにつくられていましたから、このように橋の上に橋をかさねるようなことができたのです。

ちなみに「新天満橋・天満橋」は正式名称で、「天満重ね橋」が愛称として定着しています。



▲図6 現在の天満橋。下を通るのは「アクアライナー」



明治時代の木橋

▲図7

さて、図8は淀川大洪水の(今後よく出てきます)後高麗橋を筆頭とする橋の鉄橋化と、2度にわたる大雨による市内の橋の流失で、「丈夫な橋を」ということで財政権をおしてつくられた、鉄橋の天神橋です(床板はまだ木製です)

また、天満橋と同様材料の一部が国産なのが注目です。

さて、図9は(写真は次ページです)現在の天満橋です。見てわかるとおり、鉄でできています。しかし当初はコンクリート橋になる予定でした。大阪の地盤が悪かったため、間近に変更されたようです。もしコンクリート橋になっていたら、重厚な印象の橋となり、中ノ島の剣先はずいぶんちがったながめになったことでしょう。

ところで、大阪で「天神」といえば、忘れてはならないものがあります。そう、「天神祭」です。天神祭には毎年すごい人数があつまります。まだ木橋だった江戸時代、「祭の時に橋の上で立ち止まるな」というお触れが出たそうです。そんな大げさな、と思うかもしれませんが、この心配は杞憂には終わりました。天保3年(1832年)の祭で

←新天満橋

「なにわ三大橋」のうちで唯一、中ノ島をまたがずにかかっています。

←天満橋

昔とくらべるとずいぶん違う形になっています。

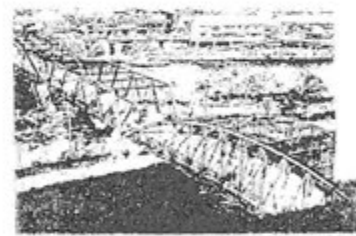
橋の姿は、京阪の京橋-天満橋間でちらっ見えます。この橋は、この研究のきっかけのひとつです。

～天神橋～

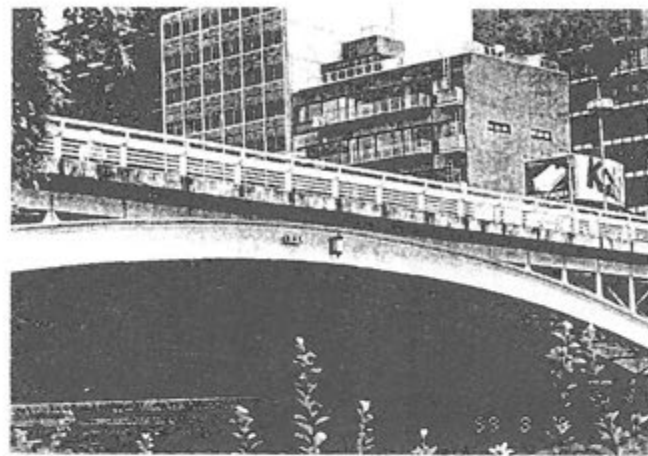
図7は明治時代にまだ木橋だったころの天神橋です。当時から240mの長さがありました。

江戸時代には、橋のいたみをできるだけおさえるために、牛車や車の通行が禁止され、橋の上に露店を出すことも禁じられました。

また、大塩平八郎の乱がおこった時、幕府はすぐさま三大橋を破壊して大塩反乱軍の鎮圧にあたりました。これは三大橋が交通の要所であった(今もそうですが)ことを意味していると言えるでしょう。



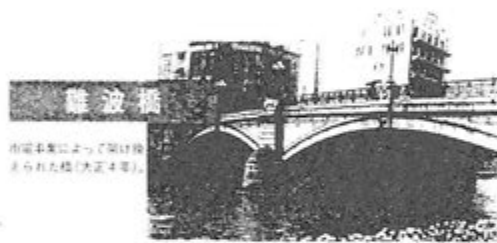
▲図8



▲図9 現在の天満橋

は、天満市場の地車（重いものを引く車～広辞苑台5版～）をかつぎ出す時に橋の一部が川に落ちて13名もの溺死者を出したこともあったそうです。

ところで、図9矢印部分の（たばこの広告のそば）照明灯は上から見ると、天神様（菅原道真）にちなんで梅鉢に見えるそうです。



▲図10

～難波橋～

三大橋シリーズ最後を飾るのは、難波橋（なんばばしではありません。なにわばしです。）です。『大阪市史』に、難波橋は行基がつくった、とありますが、大川が何百年も同じ流れを保っている、とは考えにくいので、同じ橋ではないと思われます。

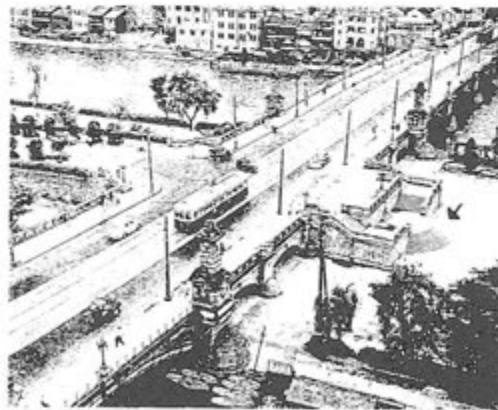
図10は大正4（1915）年、市電開通に合わせてかけかえられた難波橋です。三大橋の中では、いちばん遅く立派（市電をささえられるくらい）

な橋になりました。三大橋の中で難波橋だけははじめの計画で鉄橋化されませんでした。

図14矢印は、中ノ島公演への通路です。今も同じ形です。このような大きな石造りの階段になったのは、難波橋がはじめから中ノ島公園の一部をかざるものとして設計されたものだからです。

図12（次ページ）は現在の難波橋です。この橋は昭和47（1972）年から昭和50（1975）年に行なわれた、大規模な補修工事によってかけかえられた橋です。工事の時には昔のアーチの形をできるだけ変えないよう配慮がなされていたようです。

また、戦時中の金属供出でなくなったままだった欄干もみおつくしのマーク（市章）の入った昔の姿に復原されました。さらに、昭和60（1985）年には、大正時代にあった照明灯（戦時中の混乱で大半が失われた）が復原



▲図11

されました。（図12矢印）

と、ここまでがなにわ三大橋と呼ばれる橋たちの今・昔です。

次は、もしかすると三大橋よりも有名かもしれません。なにわのメインストリート、御堂筋にかけ、駅名にもなっている淀屋橋です。

淀屋橋は、江戸時代の豪商淀屋が、私財をなげうって建設した私設の橋です。昔の（木橋）写真を入手できなかったので、すこし、この橋に関する歴史について書いていこうと思います。

初代淀屋常安は、材木商として徳川氏の信を得、特権的商人としての地位を得てその富を使って中ノ島の開発がはじまりました。

～淀屋は江戸時代前期の大坂を台費用する最大の豪商と問所のことはあまりにも有名である。（略）元和元年、京橋一丁目淀屋特地に青物市場を開き、また米相場をたてる。（略）巨大なる米商人と目すべく淀屋米市のために土佐堀川に自費で橋をかける（以下略）～（碑文より抜粋。全文は淀屋橋のそばにある碑に書いてあります）

淀屋橋は、米市場のための橋だったので。



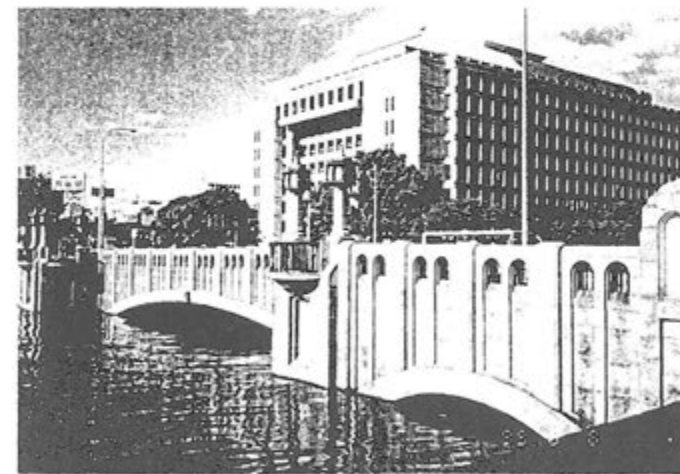
▲図12 現在の難波橋

図13は、今の淀屋橋です。（四角い建物は大阪市庁舎）昭和5（1930）年の写真もありますが、何なのかよくわからないため、省きます。

図13の淀屋橋は、デザインが公募で選ばれました。賞金は1000円（今でいう200万円くらい）だったそうです。

どうしてもワンパターン化してしまう橋になにか変化をもたせようと大阪市も必死だったのでしょう。

ところで、今回出てきた4つの橋の中で、淀屋橋だけはコ



▲図13 現在の淀屋橋

ンクリート橋です。天神橋などを見くらべて下さい。重厚な感じの橋ですね？同じ橋かも知れません。しかしこんなに違う面もあります。



▲図14 今の地図



▲図15 昔（江戸末期）の地図

位置関係はつかめましたか?今と昔の地図を見くらべるのもおもしろいです。

IV 結論・考察

大阪で「* * 橋」と名のつく駅前は?それが、この自由研究の出発点でした。天満橋、淀屋橋のほかにも、京橋、心齋橋、四ツ橋、肥後橋・・・これらの名は、ただちに「駅のとなりに橋がある（あった）から」ついたものではありません。その橋にある深い深い歴史などをもとに、それに値する価値があるから、駅名になったりしているのです。

「橋って言っても、道じゃないか。」そうです。橋は道です。しかも、アスファルトの一本道にしか見えません。でも、橋を横から見てください。そこになにかがあるような気がしませんか?

V 総括

今回、中ノ島にかかる橋のみをここにのせましたが、日本橋、戎（えびす）橋などの橋も本編であつかいました。でもそれらはすべて今も川をまたいで上を人が、車が通っています。もっと時間があつたら、心齋橋、四ツ橋のような今はない橋についても触れたかったなぁ、と思います。

VI 参考文献

- ・『大阪の橋』 松村 博著
- ・『大阪の橋』に引用されていたたくさんの書物
- ・大阪市建設局橋梁課（きょうりょうか）の方にいただいた橋の写真のコピー、パンフレット2部、地図
- ・北浜、なんば駅の「ええ町マップ」（地下鉄の職員さんに言えばもらえます）
- ・『まちに住もう』 大阪市都市住宅史編集委員会、編